

第4学年 国語科学習指導案

1 単元 材料の選び方を考えよう「アップとルーズで伝える」

2 目標（「C読むこと」イ，エ，オ）

「取出」題名や問題提起文につながるキーワードを発見しながら段落の要点をまとめ、「このように」の文や終末の文を基に読みのめあての答を抜き出すことができる。

「解釈」写真と言葉，段落と段落をつないで、「アップ」と「ルーズ」の伝え方の違いや、「目的」によって選ばれていることを読み取ることができる。

「熟考」部分を詳しく見たり全体を大まかに見たりする見方や，受け手と送り手という二つの立場から「伝える」に対する見方をもつことができる。

※ 「読み方」の重点

- 題名の類縁語や題名につながる言葉（キーワード）を見付ける。[連エ]
- 形式段落の要点を基に，文章全体を要約する。[連リ]
- 言葉と写真をつないで，言葉を敷衍して読む。[連初][非ク]

3 指導観

- 本学級の児童は，下記の二つの調査から，「読むこと（説明的な文章）」の学習が嫌いではなく，めあてに対する「取り出し」はできるが，「解釈」「熟考・評価」は不十分であるという実態が分かっている。

まず，読解力の調査では次のような結果が出ている（表一）。

表一 本学級児童の「読解力テスト」結果

	得点率 (%)			得点率が 50%以下 の児童数 (34 名中)
	その 1 問題	その 2 問題	合計平均	
「取り出し」	75.0	68.8	71.9	8 名
「解釈」	46.1	49.2	47.7	21 名
「熟考・評価」	47.9	14.6	31.3	23 名

この結果から，児童の読解力において，「取り出し」は既習であるが，「解釈」「熟考・評価」に関しては未習であることが分かる。それでも，「解釈」に関しては 50%近くを得点しており，潜在的な能力の高さが分かる。

次に，意識の調査では次のような結果が出ている（表二）。

表二 「説明文の読みにおける書く活動の意識調査」（4 尺度選択）結果の市内 9 校の児童と本学級児童の比較

	質問項目	肯定 2 尺度の割合 (%)		
		※市内	本学級	比
関心意欲	説明文の学習は好きですか？	68	78	10
読解	言葉の深い意味や筆者が言いたいことなど，問いやめあてに対する答えは分かりますか？	79	90	11
書く活動 ①	授業で考えを書く活動はありますか？	88	93	9
	その時，何をどのように書くか分かって書くことができますか？	80	83	3
	考えを書くことは好きですか？	70	70	0
書く活動 ②	授業の終わりにまとめを書く活動はありますか？	87	94	7
	その時，何をどのように書くか分かって書くことができますか？	79	86	7
	まとめを書くことは好きですか？	71	75	4

※「市内」＝福岡市小学校 9 校の 4 年生 867 人を対象に実施
各意識とも，市内全体と同様か，それ以上の様相を呈している。説明文の学習が好きな児童が多く，学習意欲に満ちあふれている学級である。「解釈」「熟考・評価」に対する指導を発達段階に応じて行えば，効果が上がるような風土となっている。また，書く活動については，抵抗感も

少なく、「解釈」を書く活動を進めやすい実態と言える。

- 本教材「アップとルーズで伝える」は、テレビ番組制作者の情報の伝え方を、部分と全体での伝わり方の違いや送り手の目的の視点から説明している文章である。具体的には、アップとルーズでの伝わり方の違いは何か、なぜ両方で伝えるのかを追究できるような題名、問題提起文があり、「比較」によってアップとルーズの違いを解釈したり、「関連付け」によって両方で伝える目的を解釈したりすることができる段落構成となっている。また、段落の言葉を解釈する際に、提示してある映像の写真を基に、言葉の意味を「想像」することもできる。このように、「解釈の技法」の「比較」「関連付け」「想像」が活用できる教材と言える。
- そこで、指導にあたっては、題名の疑問や問題提起文の問題を基に、児童の読みの視点となる課題を生み出し、その課題解決のために「解釈の技法」を活用した書く活動を充実させる。

まず、題名の「と」に着目させ、「なぜ、アップとルーズの両方で伝えるのだろう。」という疑問をもたせる。そして、「とり方」の違いを説明しているにもかかわらず、問題提起文「アップとルーズでは、どんなちがいがあのでしょうか。」があるのはなぜか問い、題名「～伝える」とつないで、「とり方」ではなく、伝え方、あるいは伝わり方の違いを説明しようとしているのではないかという課題を見いださせる。その上で、読みのめあて「1アップとルーズでは、伝え方(伝わり方)にどんなちがいがあのでしょうか。2なぜ、アップとルーズの両方で伝えるのだろう。」を設定する。

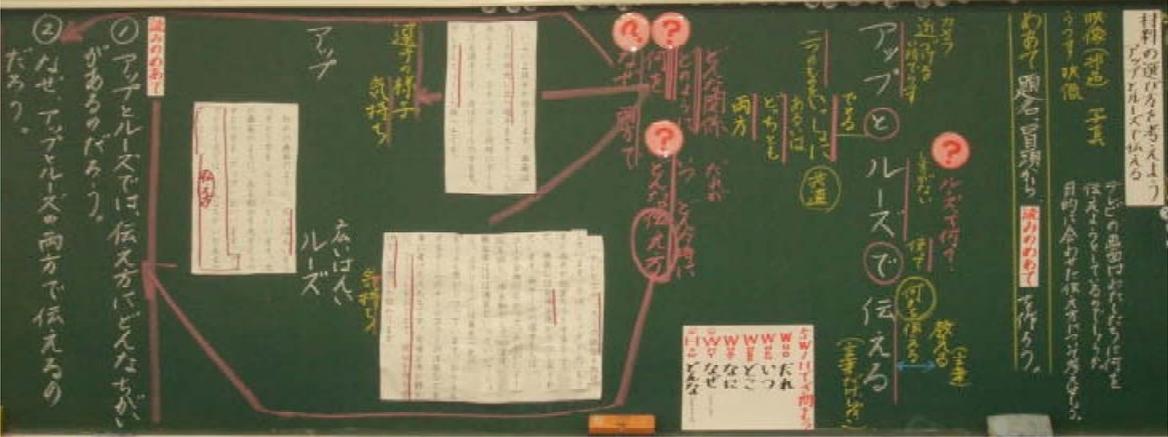
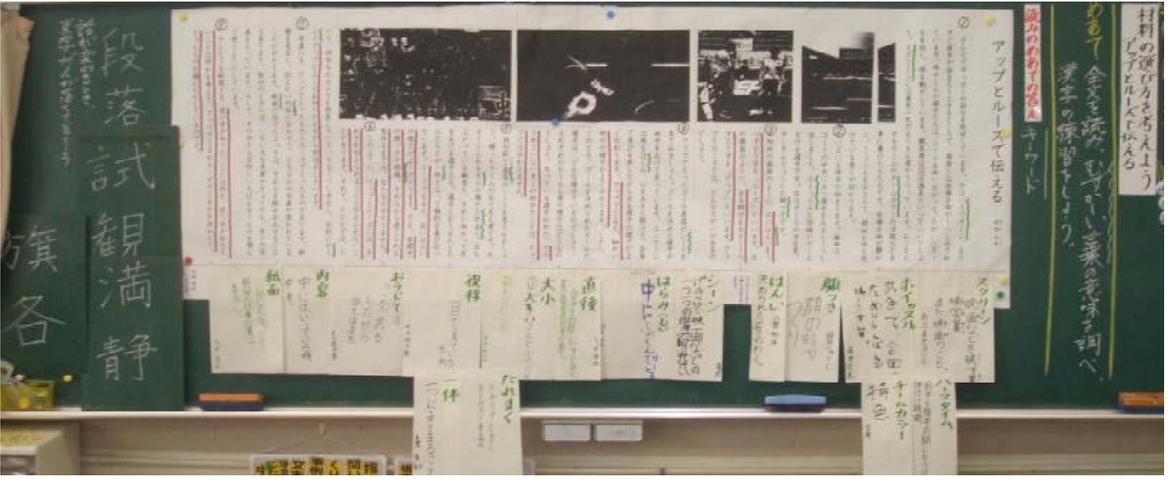
次に、一読目として読みのめあての答を出させる。これは、まだ一つ一つの言葉の意味を理解した答ではないので、「取り出し」の過程である。読みのめあて1の答を4～6段落から、読みのめあて2の答を6～8段落からまとめるようにする。その際、段落の要点のまとめ方(題名につながる言葉を見付ける、めあてにつながる言葉を見付ける、段落の中のまとめの文を見付ける)を示し、どの児童も簡単にまとめることができるように支援する。

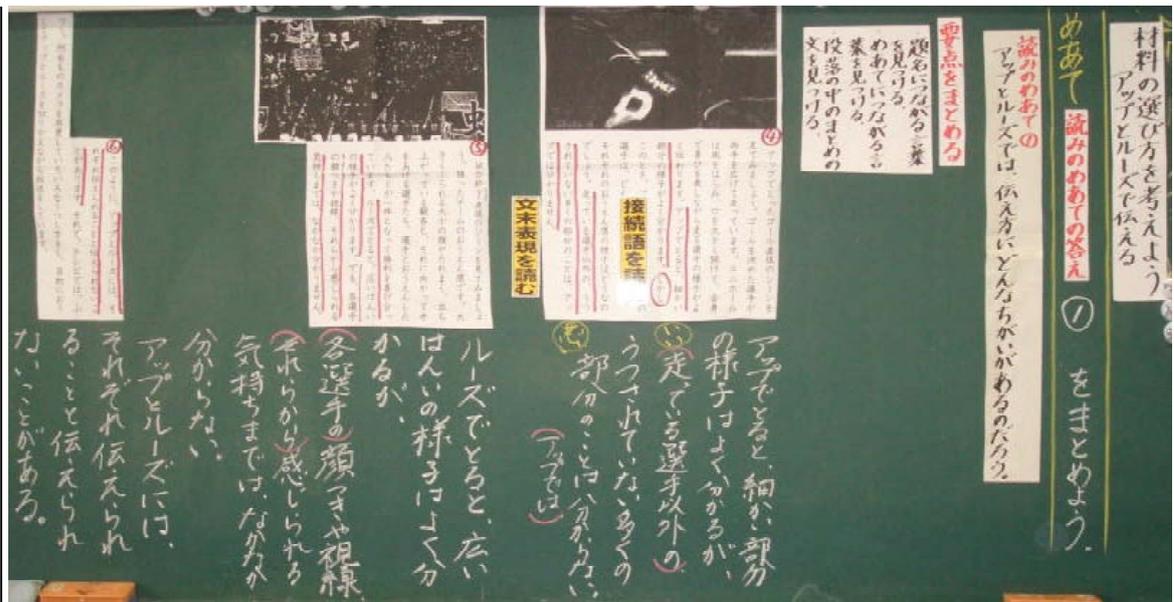
そして、書きまとめた読みのめあての答を出し合わせながら、アップについては「細かい部分の様子」で「伝えられること」とはどんなことか、ルーズについては「広いはんいの様子」で「伝えられること」とはどんなことか問い返していく。また、アップで伝える目的、ルーズで伝える目的についても問い返していきながら、それぞれを追究する視点とする学習計画を立てる。

さらに、追究の視点に沿って、それぞれを詳しく読み確かめていく。その際に、「解釈の技法」を基にした「読み方」を習得、活用するように指導する。具体的には、教室に掲示している既習の「読み方」カードを黒板に移動して活用を図ったり、新しく指示した「読み方」をカード化して習得を図ったりする。特に、映像の写真と本文の言葉をつないで、どんな細かい(広いはんいの)様子なのか、そこから何が伝わるのかを読む「写真と言葉をつないで読む」という「読み方」を習得させることで、「想像」して解釈することができるようにする。また、その「読み方」を習熟、活用させるために、新聞における写真のアップとルーズでの伝わり方の違いを問うようにする。その例題は、最近の新聞記事から選び、児童の興味関心を引くような写真とする。アップとルーズそれぞれで読み確かめを行い、一時間の終末では板書を基にキーワードを確認し、めあての答をまとめる「まとめ方」を示し、書きまとめさせる。

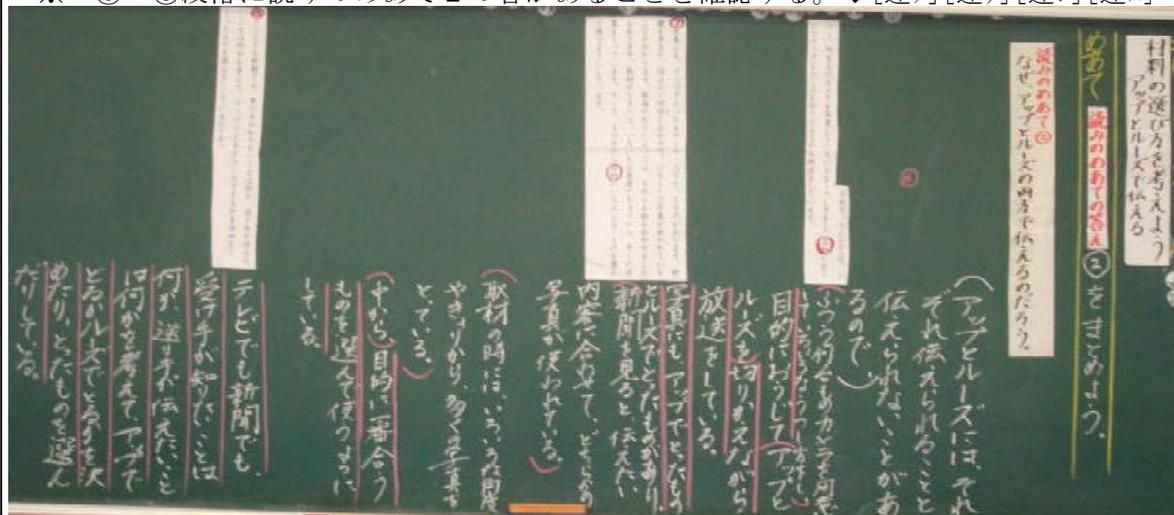
最後に、深まった読みのめあての答を書きまとめさせ、「伝える」ということのものの見方・考え方を深めるようにするとともに、本単元で学習した「読み方」を振り返り、「使えたか」「今後使おうと思うか」といった項目をチェックをすることで自己評価させる。

4 学習指導計画（「読むこと」11時間）

過程	<p>主な学習活動と指導上の留意点(※)</p> <p>◆「読解力」表(P6表-3・P7表-4)との関連 [連:連続型 非:非連続型]</p>
<p>1 読み の 取 り あ り し</p>	<p>1 単元名から読みの構えを作る。 ※ 新聞作りの経験を想起させ、「選び方」「伝え方」を意識させる。</p> <p>2 題名と冒頭から読みのめあてを作る。 ※ 題名「アップとルーズで伝える」の「と」に着目させ、なぜ両方で伝えるのかという疑問をもたせる。◆[連]</p> <p>※ 問題提起文「どんなちがいがあるのでしょうか。」をそのままとらえさせるのではなく、「とり方」の「ちがい」は冒頭に書かれていることから、リード文や題名とつないで、伝え方や伝わり方の「ちがい」であることを課題としてもたせる。◆[連]</p> <p>読み の め あ て</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1 アップとルーズでは、伝え方(伝わり方)にどんなちがいがあるのだろう。</p> <p>2 なぜ、アップとルーズの両方で伝えるのだろう。</p> </div> 
<p>2 読み の め あ て の 答</p>	<p>3 全文を読み、難語句の意味を調べたり新出漢字の練習をしたりする。</p>  <p>3 4 段落の要点をまとめる。 ※ ⑥段落の「このように」を基に、④⑤段落に「伝えられることと伝えられないこと」が書かれていることを確認する。</p>



4 ※ ⑥～⑧段落に読みのおわて2の答があることを確認する。◆[連ク][連ケ][連シ][連ス]



5 読みのおわての答を書く。◆[連リ]

学5 6 読みのおわての答を出し合い、読み確かめる 学習計画を立てる。

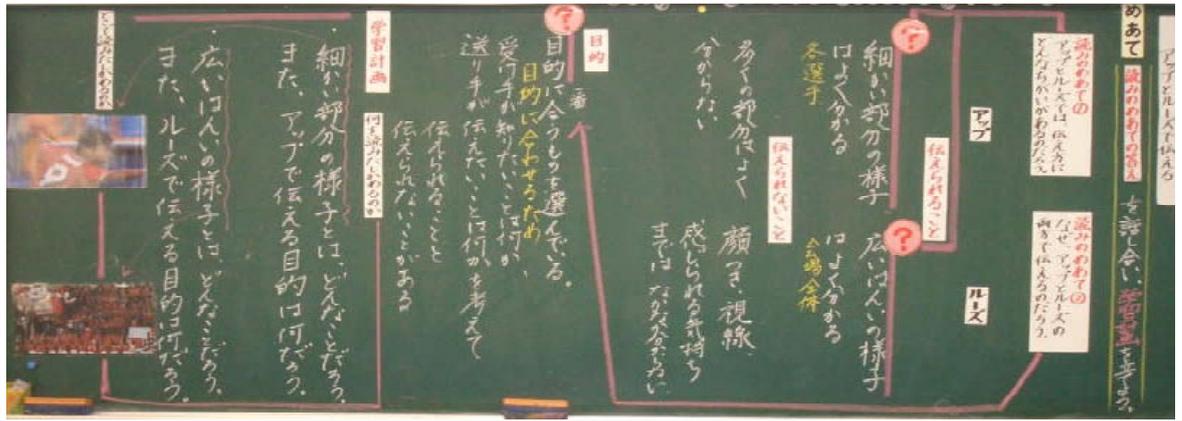
習
計
画

- 読みのおわての答
- 1 アップでは、細かい部分の様子は分かるが、うつされていない多くのことは分からない。ルーズでは広いはんいの様子は分かるが、各選手の顔つきや視線、それらから感じられる気持ちまではなかなか分からない。このように、アップとルーズには、伝えられることと伝えられないことにちがいがある。
 - 2 受け手が知りたい、送り手が伝えたいという目的に合わせるため。

※ 「伝えられること」につながる「細かい部分の様子」「広いはんいの様子」がどういうことか、どんなことが伝えられるのか問い返し、④⑤段落の言葉と写真をつないで詳しく読む計画を立てる。

※ アップとルーズで伝える「目的」はそれぞれ何か、「受け手が知りたいことは何か、送り手が伝えたいことは何かを考えて」とはどういうことか問い返し、アップとルーズでそれぞれはつきりさせる計画を立てる。

※ 新聞記事の写真についても、テレビ画像のそれぞれの読み確かめの中で具体化していくことも合わせて計画する。

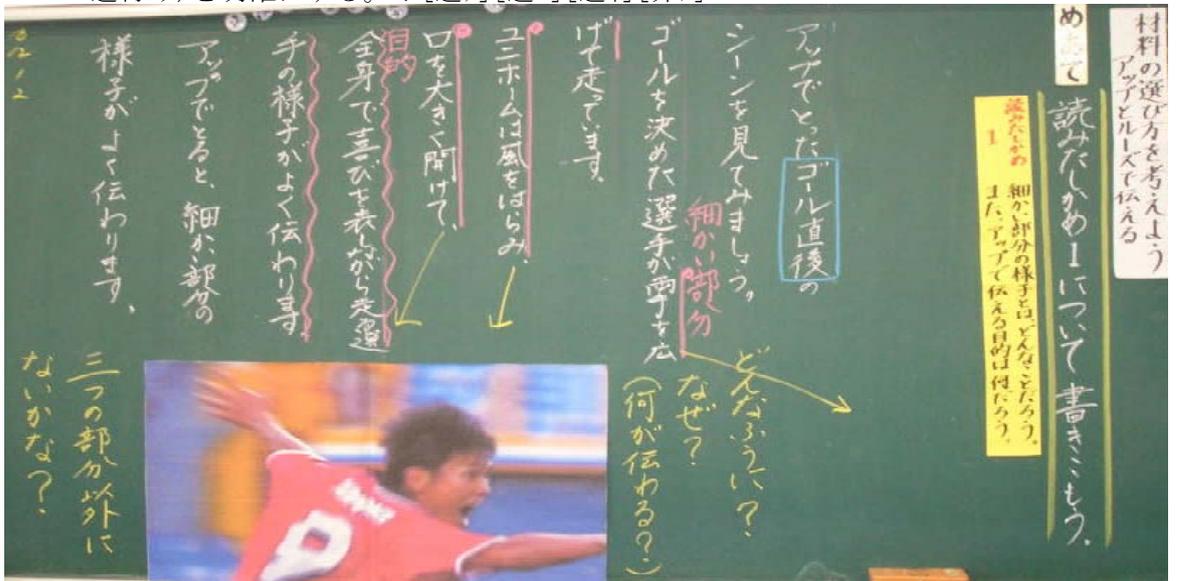


読6 1 読み確かめ1 「細かい部分の様子とは、どんなことだろう。また、アップで伝える目的は何だろう。」について、読み確かめる。

キミ
ス確
トか
のめ
解釈

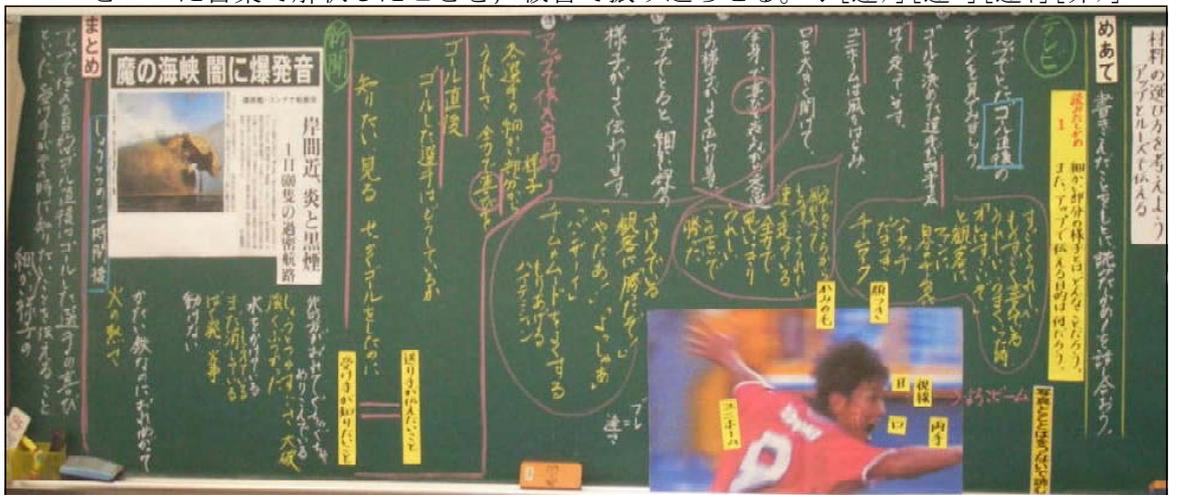
(1) 「読み方」を確認して書く。【書く活動1】

※ 「両手を広げて走って」「ユニホームは風をはらみ」「口を大きく開けて」と写真をつないで、「細かい部分の様子」を具体的にするように、「解釈の技法」(想像・関連付け)を明確にする。◆[連列][連二][連初][非列]



7 (2) 話し合い、まとめる。 【書く活動2】

※ 「細かい部分の様子」の具体化からアップで伝える「目的」へと展開する。
 ※ 新聞記事のアップの写真から、伝えられる「細かい部分の様子」を実感させる。
 ※ 「細かい部分の様子」を「ゴール直後」「選手」「喜び」「受け手が知りたいこと」といった言葉で解釈したことを、板書で振り返らせる。◆[連列][連二][連初][非列]



(本時)

8 2 読み確かめ2 「広いはんいの様子とは、どんなことだろう。また、ルーズで伝える目的は何だろう。」について、読み確かめる。

(1) 「読み方」を確認して書く。【書く活動1】

※ 「大きくふられる大小の旗やたれまく」「立ち上がっている観客」「それに向かって手を上げる選手たち」と写真をつないで、「広いはんいの様子」を具体的にするように、解釈の技法(想像・関連付け)を明確にする。◆[連列][連二][連初][非列]

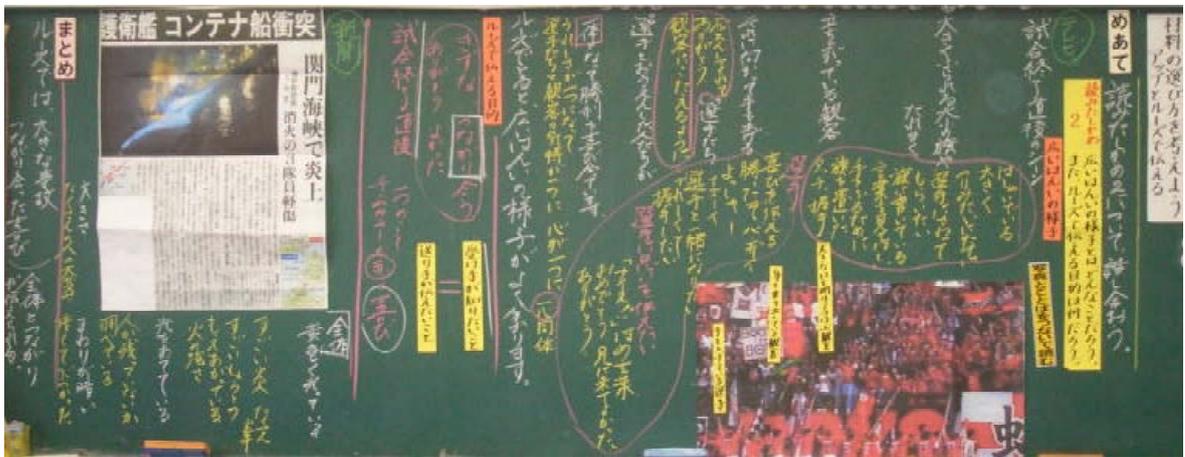


(2) 話し合い、まとめる。【書く活動2】

※ 「広いはんいの様子」の具体化からルーズで伝える「目的」へと展開する。

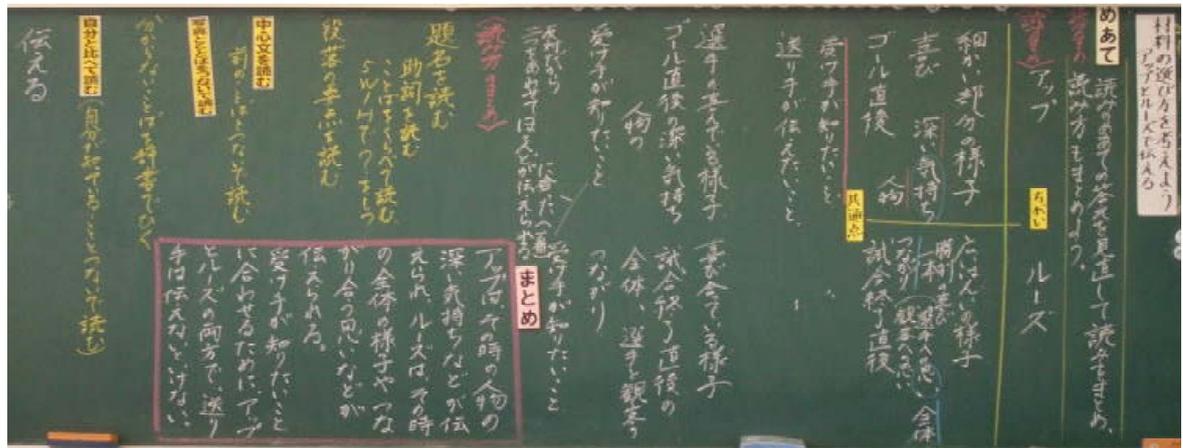
※ 新聞記事のルーズの写真から、伝えられる「広いはんいの様子」を実感させる。

※ 「広いはんいの様子」を「全体」「気持ちを一つに」「つながり」「受け手が知りたい」といった言葉で解釈したことを、板書で振り返らせる。◆[連列][連二][連初][非列]



熟考・評価

- 1 読みのめあての答を見直す。
 - (1) 深まった読みのめあての答を書く。
 - (2) 読みのめあての答を確かめる。
- 2 読み方を振り返る。
 - ※ 「読み方」を3段階でチェックさせる。
- 3 「伝える」ことの見方の変容を書く。
 - ※ これから新聞を書くなど伝える時に、どんなことを心がけたいか書かせる。



11 4 評価テストを行う。

5 本時の目標（7／11「テキストの解釈」）

- 写真と言葉をつないで想像することによって、「細かい部分の様子」で「伝えられること」を解釈することができる。
（「読み方」の重点・言葉と写真をつないで、言葉を敷衍して読む。◆[連袂][非々]）
- 6段落で解釈した「細かい部分の様子」で「伝えられること」を基に、新聞記事の写真から、アップの目的を解釈することができる。

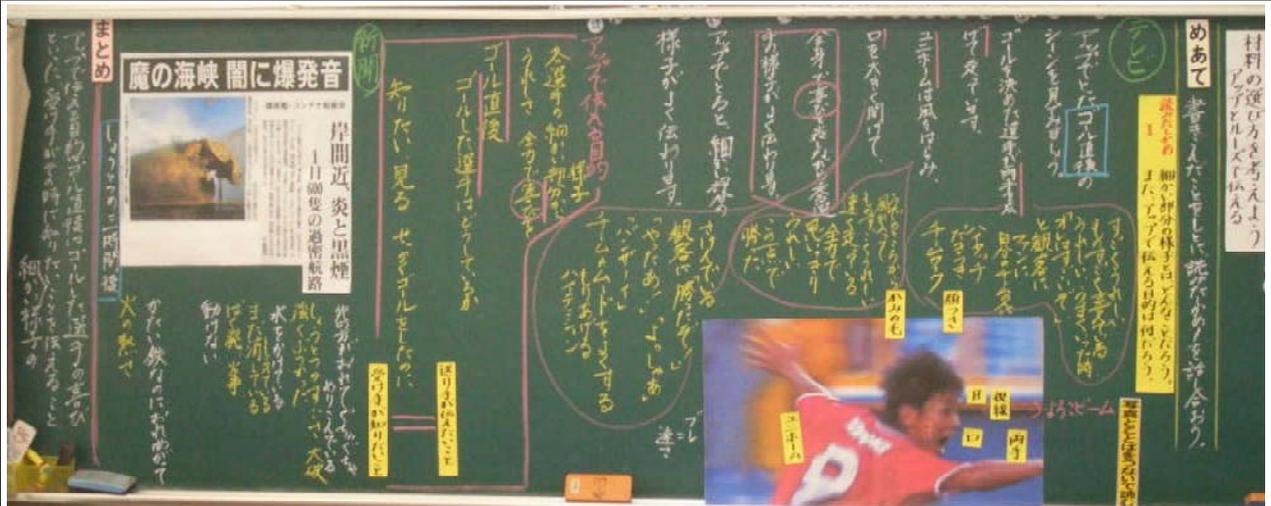
6 本時指導の考え方

前時に、児童は「細かい部分の様子」で「伝えられること」について、写真と言葉をつなぐ「読み方」で、学習プリントに想像したことを書いている【書く活動1】。本時は、書いた解釈を基に話し合い、深まった解釈を書きまとめる【書く活動2】時間である。

そこで、まず、めあてを話させ、「細かい部分の様子」とはどういうことか、アップで伝える「目的」は何か話し合うことを確認する。次に、児童の書いたものをまとめたカルテ（座席カルテ表）を基に、「両手を広げて」「ユニホームは風をはらみ」「口を大きく開けて」の3点がどういうことか、何が伝えられるのかを話し合わせる。その際に、どのように想像したのか分かるように、立ち止まった言葉や写真の読み取りについて説明させるようにする。そして、アップで伝える「目的」について、話し合わせる。その際に、「送り手」「受け手」という言葉と関連付けて考えさせるようにする。さらに、新聞記事の写真から「細かい部分の様子」で「伝えられること」を書かせ、発表させる。最後に、本時学習をまとめるために、どんな言葉をキーワードにするか問い、「細かい部分の様子」については「選手」「喜び」、 「目的」については「ゴール直後」「受け手が知りたいこと」をキーワードにする。

7 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点 ◆「読解力」表(P6表-3・P7表-4)との関連 [連：連続型 非：非連続型]
1 めあてを確認する。	
「細かい部分の様子」とはどんなことか、アップで伝える「目的」は何か、読み確かめよう。	
<p>2 書いたことを基に話し合う。</p> <p>(1) 「細かい部分の様子」について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「両手を広げて」 ○「ユニホームは風をはらみ」 ○「口を大きく開けて」 <p>(2) アップで伝える「目的」について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「送り手が伝えたいことは何か」 ○「受け手が知りたいことは何か」 <p>(3) 新聞記事の「細かい部分の様子」について書く。 【書く活動1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 船衝突事故のアップの写真の載った新聞記事 <p>(4) 新聞記事の「細かい部分の様子」について話し合う。</p> <p>3 「今日の学習で」を書き、本時学習をまとめる。</p> <p>(1) キーワードを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「細かい部分の様子」…「選手」「喜び」 ○「目的」…「ゴール直後」「受け手が知りたいこと」 <p>(2) 「今日の学習で」を書きまとめる。 【書く活動2】</p> <p>(3) 数名が発表する。</p>	<p>※ 4段落の言葉と写真をつないで想像して書いた読み取りを、授業カルテを基に、発問・指名・問い返しを繰り返しながら出し合わせ、深めていく。</p> <p>※ 自分の生活経験とつないで、どんなときに両手を広げて走るか想像させ、「両手を広げて」を解釈させる。 ◆ [連タ] [連ネ] [非ウ]</p> <p>※ どのように走ったらユニホームが風をはらむのか想像させ、選手の喜びの大きさとつなぐ。 ◆ [連タ] [連ニ]</p> <p>※ 「口を大きく開けて」何をしているのか問い、叫んでいる、大きな声で何か言っているといった読み取りを出させた上で、どんな言葉を発しているかを考えさせる。 ◆ [連タ] [連ニ] [連ネ]</p> <p>※ 「送り手」側の読み取りを発表させ、「受け手」側の読み取りを発表させることで、より「受け手」を意識することの大切さを強調する展開とする。 ◆ [連ヌ]</p> <p>※ 「～のところから～ということが伝わる」という書き方で、「細かい部分の様子」で「伝えられること」を具体化するように助言する。</p> <p>※ 机間指導しながら児童の読み取りを把握し、その児童が挙手しない場合は指名する。</p> <p>※ 板書を基に、「細かい部分の様子」「目的」を振り返り、キーワードを問う。</p> <p>※ キーワードを使っているか助言しながら、机間指導を行う。</p>



材料の選び方を考えよう「アップとルーズで伝える」
第7時 授業プラン

- 1 めあてを確認する。
- T 今日めあてを言ってください。
C 今日は、書き込んだことを基に、読み確かめ1について話し合います。
T 読み確かめ1って、何を読むのですか？
C 「細かい部分の様子」とはどんなことかというところで、アップで伝える「目的」は何かということに話し合おう。
- 2 書いたことを基に話し合う。
- (1) 「細かい部分の様子」について話し合う。
T 「両手を広げて」「ユニホームは風をはらみ」「口を大きく開けて」の三つに書き込んだんだっかね。「両手を広げて」から発表してください。
A 児 ものすごく喜んでます。
T 別の言い方では？
C 児 お客さんに「おれはすごいぞ」と言っていると思います。
D 児 どうしてそんなに喜んでるのですか？
T だからです。
T 観客に喜びを表していると書いていた人は他にもいましたね。
E 児 F 児 G 児 ファン
T いや、観客だけじゃないよという人
H 児 I 児 J 児 チームで喜びたい。
T どんなふうに、チームで喜びたい？
K 児 L 児 M 児 N 児 ハイタッチ
O 児 チームワークを大切にしてる。
- (2) アップで伝える「目的」について話し合う。
T 写真と言葉をつないだら、詳しく想像できたね。「目的」ももう分かってきましたね。発表しましょう。
列指名 C (送り手側) (受け手側)
T (受け手側) 対する反応が弱い時は、D 児・K 児・X 児・Y 児を指名する。
D 児 ゴール直後は、ゴールを決めた人の気持ちを受け手が知りたいたいと思っているから、手が出るようにアップで伝えるんだね。テレビのアップの「細かい部分の様子」と「目的」はよく分かりましたね。次は、新聞の写真です。船が衝突した直後の写真とそれから3時間後の写真です、どちらがアップで、ルーズですか？(略)
T この写真を見て、「細かい部分の様子」と「目的」を書きましょう。
(机間巡視し、読みを把握するとともに個別指導を行う。)
- (3) 新聞記事の「細かい部分の様子」について話し合う。
T 発表しましょう。(列指名)
C へこんでいるところから、衝突のものすごく分かりました。
C とけて曲がっているところから、火災のものすごく分かりました。
T 「今日の学習で」を書き、本時学習をまとめよう。
T 3時間後だったら、どんなふうになつかったのかということよりも、ぶつかった焼けた後の船の詳しい様子が知りたいですよね。それでは、今日は、「細かい部分の様子」を「選手」「喜び」「目的」を「ゴール直後」「受け手が知りたいたい」という言葉で読み取ったね。「今日の学習で」にアップで伝える「目的」を書きまとめよう。(「書く活動2」)
- (机間巡視し、読みを把握するとともに個別指導を行う。)
- T ○○君と○○さん、発表してください。
T ○○君 ○○さん ○○さん
T 二人のまとめを板書
T アップで伝える「目的」は、ゴール直後はゴールした選手の喜びといった、受け手がその時に知りたいたい様子を伝えることなんだね。明日は、ルーズの「広いはんいの様子」と「目的」を詳しく読みましょう。よくがんばりました。
- 材料の選び方を考えよう
「アップとルーズで伝える」
めあて
書き込んだことを基に、読み確かめ1について話し合います。
読み確かめ1
何を読むのですか？
「細かい部分の様子」とはどんなことかというところで、アップで伝える「目的」は何かということに話し合おう。
書いたことを基に話し合う。
(1) 「細かい部分の様子」について話し合う。
「両手を広げて」「ユニホームは風をはらみ」「口を大きく開けて」の三つに書き込んだんだっかね。「両手を広げて」から発表してください。
ものすごく喜んでます。
別の言い方では？
お客さんに「おれはすごいぞ」と言っていると思います。
どうしてそんなに喜んでるのですか？
だからです。
観客に喜びを表していると書いていた人は他にもいましたね。
ファン
いや、観客だけじゃないよという人
チームで喜びたい。
どんなふうに、チームで喜びたい？
ハイタッチ
チームワークを大切にしてる。
(2) アップで伝える「目的」について話し合う。
写真と言葉をつないだら、詳しく想像できたね。「目的」ももう分かってきましたね。発表しましょう。
列指名 C (送り手側) (受け手側)
(受け手側) 対する反応が弱い時は、D 児・K 児・X 児・Y 児を指名する。
ゴール直後は、ゴールを決めた人の気持ちを受け手が知りたいたいと思っているから、手が出るようにアップで伝えるんだね。テレビのアップの「細かい部分の様子」と「目的」はよく分かりましたね。次は、新聞の写真です。船が衝突した直後の写真とそれから3時間後の写真です、どちらがアップで、ルーズですか？(略)
この写真を見て、「細かい部分の様子」と「目的」を書きましょう。
(机間巡視し、読みを把握するとともに個別指導を行う。)
- 「今日の学習で」を書き、本時学習をまとめよう。
3時間後だったら、どんなふうになつかったのかということよりも、ぶつかった焼けた後の船の詳しい様子が知りたいですよね。それでは、今日は、「細かい部分の様子」を「選手」「喜び」「目的」を「ゴール直後」「受け手が知りたいたい」という言葉で読み取ったね。「今日の学習で」にアップで伝える「目的」を書きまとめよう。(「書く活動2」)
- (机間巡視し、読みを把握するとともに個別指導を行う。)
- 君と君さん、発表してください。
君 君さん 君さん
二人のまとめを板書
アップで伝える「目的」は、ゴール直後はゴールした選手の喜びといった、受け手がその時に知りたいたい様子を伝えることなんだね。明日は、ルーズの「広いはんいの様子」と「目的」を詳しく読みましょう。よくがんばりました。

表一 3 連続型テキスト(説明的文章)の「読み方」表

PISA 型「読解力」のプロセス	連続型テキスト(文章)を読解する力	具体的な「読み方」
I 情報の取り出し	1 事実と意見を区別する力(文種判断) 2 大事な言葉を見付ける力(キーワード発見)	ア 文末表現から事実と意見を区別する イ 題名や文章の言葉の意味に疑問をもつ(5W1Hで?)を作る ウ 指示語の指す言葉を見付ける エ 題名の類縁語や題名につながる言葉(キーワード)を見付ける オ 疑問詞や文末表現を基に、問いの文を見付ける カ キーワードや文末表現から理由になる文を見付ける キ キーワードや文末表現から問いの文に対する答の文を見付ける ク 形式段落に番号を打つ ケ 形式段落の中の最重要文を題名や問いの文とつないで見いだす コ 形式段落の中のキーワードを見いだす サ 時間の順序や事柄の順序を読む シ 接続語を基に主張と事例を区別する ス 形式段落の要点をまとめる セ 接続語や形式段落の要点を基に文章を意味段落に分け、小見出しを付ける ソ 意味段落の小見出しや形式段落の要点を基に、文章全体を要約する
II テキストの解釈	4 言葉と自分の知識や経験などをつないで想像し説明する力(想像) 5 言葉を外したり比べたりして意味を理解し説明する力(比較) 6 言葉と言葉などをつないで意味を理解し説明する力(関連付け) 7 事例にキーワードバックして抽象的な言葉の意味を理解し説明する力(関連付け) 8 筆者の意図を推論し説明する力(推論)	タ 題名やキーワードを、自分の知識や経験とつないで敷衍して読む チ 修飾語などの言葉を外して比べ言葉の意味を読む ツ 類縁語と比べて、言葉の意味を読む テ 段落と段落を比べて、共通点と違いを読む ト 別の助詞に置き換えて、助詞の意味を読む ナ 別の文末表現に置き換えて、文末表現の意味を読む ニ 段落の中で、中心となる言葉とそれを支える言葉をつないで、文脈における固有の意味を読む ヌ 段落を越えて、中心となる言葉とそれを支える言葉をつないで文脈における固有の意味を読む ネ さし絵や写真などと言葉をつないで、言葉を敷衍して読む ノ キーワードを、他の文章とつないで敷衍して読む ハ まとめの段落の言葉を、外したり比べたりして読む ヒ それまでの言葉や事例とつないで、まとめの段落の言葉の文脈における固有の意味を読む フ 題名とまとめの段落の言葉の意味をつないで、要旨をまとめる ヘ (接続語を基に)文と文、段落と段落を比べて、繰り返し表現、事例の数や事例の順序、関係から、筆者の設定の意図を読む ホ 引用の意図を読む マ 題名に返り、この題名で何を伝えようとしていたか、筆者の意図を読む ミ まとめの段落への納得や驚きの実感を表現する ム 筆者の主張や筆者の意図と、自分の見方・考え方を比べて、感想をもつ メ 筆者の論理展開に対して感想をもつ モ 筆者の表記(書き表し方)の特徴を見付けて感想をもつ ヤ 筆者の論理展開を活用して、他の対象で再構成する
III 熟考・評価	9 筆者の主張や意図に対する自分の考えをもち、論述する力(内容批判) 10 文章の表現方法(論理展開や表記)の妥当性を評価する力(表現批判)	

表一 4 非連続型テキストの「読み方」表

PISA 型「読解力」のプロセス	非連続型テキスト(図、グラフ、表)を読解する力	具体的な「読み方」
I 情報の取り出し	1 各種のテキストから必要な情報を読み取る力(言語化・数値化)	ア 表題や出典などを確認する イ 社会科の既習を活用し、目的に応じて、矢印や括り、位置などから、上位・下位概念、包含関係、時間経過などを言語化する(図) ウ 国語科の既習を活用し、言語化する(写真・絵) エ 社会科の既習を活用し、目的に応じて、方位、縮尺、地図記号、土地の高さ、分布項目などに留意して言語化する(地図) オ 算数科の既習を活用し、目的に応じて、縦軸と横軸に着目して数値化する(グラフ) カ 算数科の既習を活用し、目的に応じて、項目に着目して(二次元表の場合はクロスの意味も考えて)言葉や数値を取り出す(表) キ 社会科の既習を活用し、目的に応じて、時代名や年号の並び、関連する出来事に着目して、情報を取り出す(年表)
II テキストの解釈	2 情報と自分の知識や経験などをつないで想像し説明する力(想像) 3 情報の違いや変化を理解し説明する力(比較) 4 他のテキストとの関係を理解し説明する力(関連付け) 5 社会的事象の意味を理解し説明する力(関連付け) 6 テキストを提示する意図を推論し説明する力(推論)	ク 目的に応じて、一部分を詳しくとらえたり全体を大まかにとらえたりして、自分の知識や経験とつないで敷衍して読む ケ テキストの情報を比較し、共通点や相違点を見いだす コ テキストとテキストの情報のつながりが分かり、関係を認識する サ 一つのテキストの中や、複数のテキスト間における関係の認識を基に、因果、包含、変容、深化、具体化(拡張、多面化)、抽象化(収斂)などの関係性を見いだす シ 意味認識を基に、提示者の主張の明瞭性、具体性、強調性を明確にする
III 熟考・評価	7 関連付けるテキストの種類の妥当性を評価する力(内容批判) 8 関連付けるテキストの表現の妥当性を評価する力(表現批判)	ス テキスト提示の目的に合致しているかどうか、他の種類のテキストと比較して検討する セ テキスト提示の目的に照らして、テキストの範囲(部分⇄全体)や明瞭性を検討する